新型コロナウイルスワクチン接種についての情報提供

人類に対して初めて使用される遺伝子ワクチンは、まだ治験の途中で緊急使用されているため、効果や安全性の情報が不足しています。接種は強制ではありません。本人が希望する場合のみ接種が行われます。薬品の投与には必ずリスクが伴います。効果とリスクの双方を理解した上で、自らの意思で判断する必要があります。当院では患者様の健康を考え、最新の情報をご提供させて頂きます。判断材料としてご利用頂けると幸いです。

＜効果＞

・発症の予防および重症化の予防を期待（治験中のため効果は不明）

※あくまで発症の予防であり感染の予防効果は期待できない（厚労省発表）

イギリスは非接種者より２回接種者の方が約４倍感染率が高いというデータを公表し、日本も同様の状況となっている

※４回目の接種が進んでいるイスラエルでは感染者の急増が止まらず、重症化する人も増え、死者も急増している。

※政府は接種証明書を発行しているが、国内での運用は感染抑止効果が確認出来ないため中止。予防接種法では非接種者への差別は許されないとの付帯決議が成されている。

＜リスク＞

◎日本における副作用の疑い事例（R.3.2/17～R.4.6/10 厚労省発表）

・死亡報告　１７４３件　→　１７７１件に増加！！（R.4 .7/8）

※平成３０年のインフルエンザワクチン接種後の死亡報告数３件

・重篤な副反応　２２９８９件！！（R.4 .7/8）

心筋炎、脳血管障害、失明、ギランバレー症候群など

・妊娠中に接種後の死亡６人、重篤１００人

・２回以上の接種後９０％以上に発熱、頭痛、強い倦怠感、関節痛など（これらの症状は報告義務がないため副作用件数に含まれていない）

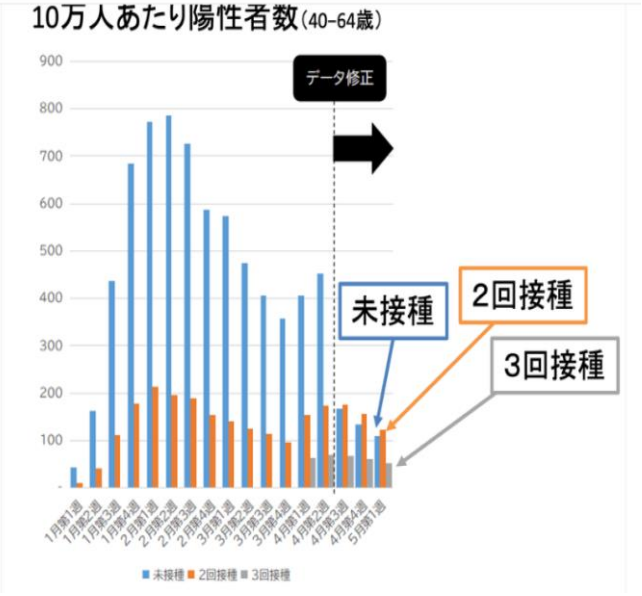
◎アメリカの状況（2022.7.15 時点　CDC 等発表）　副作用報告数 1350947 人

・死亡　29635 人　・入院　169426 人　・緊急ケア　132276 人　・心筋炎　50627 人

＜考察＞

接種開始以来、直後に死亡したり重篤な状態に陥る人が相次いでおり、世界中で問題になってきている。イギリスやﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞでは政府が責任を認め賠償請求に応じる姿勢を見せ始めた。しかし、日本政府は頑なに因果関係を認めようとはしない。政府は製薬会社と「副作用が出ても責任は問わない」という契約を結んでいる。治験中の新薬にそのような契約を結ぶ時点で国民を守る意思が無いと受け取れる。多くの被害者が泣き寝入りする中、勇気を持って立ち上がり被害者の会を設立する遺族も出てきた。これから訴訟を起こす予定。当院も支援していく。

「統計でウソをつく方法」という著書があります。WHO 最大の出資者でありワクチン開発に多額の投資をしているビル・ゲイツの愛読書としても知られている本です。統計はデータの取り方や見せ方によって結論を変えることが出来ます。見る相手にどう思わせたいか結論を先に決めて、その結論に至るようなデータで統計を出す。自分に都合の良いデータだけを出し、不都合なものは見せない。政府やメディアが示す統計の大半は国民の思考を誘導するために意図的に作られています。どんな統計でも、まずその裏に如何なる意図があるのか疑って見なくてはなりません。鵜呑みにせず自分の頭で考える。統計に騙されないよう気を付けていきましょう！



データの修正前と修正後で、ここまで結果が変わっています👆修正前のデータで予防効果があるとし、それを信じて接種した人も多いでしょう。怒りの声を挙げるべきです！国民を騙すな！！